北海道浅井学園大学生涯学習システム学部研究紀要　第2号
Bulletin of Hokkaido Asaigakuen University
School of Lifelong Learning Support Systems No. 2
平成14年3月
March, 2002

平成12年度の網走・釧路・根室支庁管内市町村教育委員会主催の「絵画関係講座」に関する調査研究

A Research of Public Seminars Focused on Paintings and Drawings Organized by Municipalities in Abashiri,Kushiro and Nemuro Sub-prefectures in the year 2000

野　崎　嘉　男
Yoshio　NOZAKI

Ｉ　はじめに

この調査報告は北海道女子大学短期大学部（現北海道浅井学園大学短期大学部）研究紀要第36号（平成11年3月発行）の平成9年度空知支庁管内27市町村教育委員会主催の「絵画関係講座」，同第38号（平成12年3月発行）の平成10年度留萌支庁管内9市町村と宗谷支庁管内10市町村教育委員会主催の「絵画関係講座」，北海道浅井学園大学生涯学習システム学部研究紀要第1号（平成13年3月発行）の平成11年度渡島支庁管内17市町村と檜山支庁管内10町教育委員会主催の「絵画関係講座」に関する調査報告に次ぐ第4報である。

今回は北海道の道東圏に位置する網走支庁管内26市町村，釧路支庁管内10市町村と根室支庁管内5市町を対象に調査したものである。

平成13年6月から7月にかけて，北海道新聞社が40歳から79歳までを対象として行なった中高年アンケート調査で，多項目にわたって大変興味深い結果が発表されていたが，中でも『これから学びたい，試したいこと』のデータでは，〈絵画・書道〉が50代ではパソコン40.5%，スポーツ25.1%に次いで24.9%で3位。60代ではパソコン31.3%に次いで27.8%で2位。70代では29.8%で1位という結果になっていた。

すでに第1報で述べたとおり，平成8年に北海道が発表した「道民の生涯学習に関する意識調査報告書」では，道民の学習してみたい生涯学習の内容は「健康スポーツ」が64.5%，「趣味的なもの」が60.8%とこの二つが圧倒的に多い調査結果がでた。また目的については「趣味を豊かにする」が65.8%，「健康・体力づくり」が52.4%，「老後の人生を有意義に」が52.3%，「他人との親睦を深める」が52.0%の順になっている。これらの調査結果や現況などをふまえ北海道は平成8年に北海道生涯学習審議会を設け，次のような生涯学習推進施策の方向を打ち出した。

(1)　道民の生涯学習の関心が着実に高まっていることから，人々の学習意欲を充足させることのできる，より幅広い学習の機会の提供が必要である。

(2)　高等教育機関の社会人入学や公開講座の受講希望が多いことから，全道的な体制づくりが必要である。

(3)　学習したくてもできない原因があることから，これらについての解決方策について検討する必要がある。

(4)　生涯学習を通して身につけた知識や技能などを，社会的に活用する方策について検討する必要がある。

この中の，(1)についての部分『…人々の学習意欲を充実させることのできる，より幅広い学習の機会の提供が必要である』ところに焦点をあて，趣味を豊かにする領域の一つでもある文化活動としての「絵画関係講座」が，前述したような北海道の生涯学習の積極的な取り組みに呼応して，道内の各市町村教育委員会が心の豊かさを求める住民のニーズにどのように連動しているかの調査を実施し，第１報では道央圏の空知支庁管内27市町村の状況を，第２報では道北圏の留萌支庁管内と宗谷支庁管内19市町村の状況を，第３報では道南圏の渡島支庁管内と檜山支庁管内27市町村の状況を報告することができた。今回の第４報では道東圏３支庁管内40市町村を含め，これで道内合計113市町村（全体212市町村の53.3%）の状況を調査することができた。

今回の調査の目的は①網走支庁管内，釧路支庁管内と根室支庁管内市町村主催の「絵画関係講座」の開設状況を把握すること②住民のニーズに応えた受講者状況を把握すること③担当指導者の現況を把握すること④他支庁管内各市町村教育委員会の多面的な対応状況を把握し，比較検討すること⑤私は油彩絵画を専門とする美術家（道展会員）であるが，生涯学習の観点から今後の学生への絵画指導上の基礎的資料を得ることにある。

今回で北海道１４支庁管内の内８支庁管内（空知・留萌・宗谷・渡島・檜山・網走・釧路・根室）の状況を調査することができたが，以後継続して他支庁管内市町村教育委員会を対象にしての調査を実施して，北海道全域の状況を検分することを念頭に置いている。

II　調　査　方　法

調査対象は自治体の生涯学習の担当部署である網走支庁管内26市町村（３市20町３村）教育委員会，釧路支庁管内10市町村（１市８町１村）と根室支庁管内５市町（１市４町）教育委員会にした。

６月中旬に文書で調査の依頼をしたが，９月末日までに釧路支庁管内全10市町村，根室支庁管内全５市町，網走支庁管内全26市町村のうち紋別市を除く25市町村の合計40市町村教育委員会から回答を得ることができた。

調査はアンケート式とした。対象市町村名は次のとおりである。回収率は97.6%であった。

【網走支庁管内】　市部…網走市，北見市，紋別市（３市）。町部…生田原町，遠軽町，雄武町，興部町，置戸町，上湧別町，清里町，訓子府町，小清水町，佐呂間町，斜里町，滝上町，端野町，津別町，常呂町，美幌町，丸瀬布町，女満別町，湧別町，留辺蘂町（20町）。村部…白滝村，西興部村，東藻琴村（３村）。

【釧路支庁管内】　市部…釧路市（１市）。町部…厚岸町，阿寒町，音別町，釧路町，標茶

町，白糠町，弟子屈町，浜中町（８町)。村部…鶴居村（１村)。

【根室支庁管内】 市部…根室市（１市)。町部…標津町，中標津町，別海町，羅臼町（４町)。※市町村名は50音順

Ⅲ 結果および考察

１．平成12年度の「絵画関係講座」開設の有無

(1) 網走支庁管内

網走支庁管内25市町村（未回答の紋別市を除く）での「絵画関係講座」開設の有無は，開設した市町が６，開設しなかった町村が19であり，開設したのは全体の31.6％であった。市町村別にみると市が２市で２，町が20町のうち４，村が３村で０の状況であった。開設しなかった町村が19であったが，そのうち回答を寄せてくれた14町村からの理由は次のようなものであった。

『特に理由はないが，平成９年度と平成11年度に，イラストの講座を開設している。また，本町の高齢者学級「瞰望大学」において，平成10年度より年間プログラムとして，絵画の講座を実施している』(遠軽町)，『数年前に開催した経過があるが，参加状況が思わしくなかった。意図的に組む手段がなく（住民の要望等)，現在に至っており，年次計画にも入ってきていない。今後の状況を見て判断をしたい』(置戸町)，『(略）今まで開設した経緯もなく，また適当な会場･講師も見当らない。需要もそれほど多くないと思われる』(上湧別町)，『平成11年度は絵手紙講座を実施しました。平成12年度に開設しなかった理由は特にありません』(訓子府町)，『平成11年度道民芸術祭地方祭の展示部門（斜網地区文化団体協議会主催，斜里町文化連盟主管）で「オホーツク絵画展・絵画教室」が開催された。本来なら年１回絵画にとどまらない展示系の芸術文化講座が開催される必要性は感じているが，舞台系の講座に今は労力をつぎこんでいる現状である。(略)』(斜里町)，『特にありませんが，当町文化連盟加入団体において絵画関係のサークルがあります』(滝上町)，『絵画の人口が少ない』(端野町)，『過去何度か開設したが，参加者が少なく，近年は希望者がいないため』(常呂町)，『社会教育施設において絵画関係サークルが２サークル活動しており，町内でも美術協会が活動しているなど，住民の絵画活動の機会は充実しており，初心者も活動に参加しやすい状況にある』(美幌町)，『１．地域住民のニーズがあまり見受けられないため(住民アンケート等も実施済み)。２．町内に絵画に関係する団体が存在しない』(丸瀬布町)，『町内の絵画サークルが休会中であり，要望もなかったため。今後，絵画サークル等が町内の文化団体として根づくよう講座等を開催しなければならないと考えている』(女満別町)，『絵画サークルがあるため』(湧別町)，『住民からの要求，要望がなかった。社会教育としても取り組む必要性を感じなかったため，サークル等の学習支援としてとらえている』(白滝村)，『受講者が少ない。他の部門での講座やサークルが開催されており，日程を取るのが厳しい。※木工　，草木染め，陶芸，リース作り等』(西興部村)，『住民要望がない』(東藻琴村)というように開設しなかった理由をみるかぎり①過去に関連講座を

開設したことがある②参加者が少ない③住民からの要望がない④絵画関係の自主的なサークル活動がある⑤適当な会場，講師が見当らないなどが主に挙げられた。特に②参加者の問題③住民の要望の問題については，教育委員会の取り組みとしても消極的になっていく要因になる。文化関係分野事業については体育関係分野事業とは異なり，記録等で直ぐに成果が表れるものではないだけに，住民へ対しての地道な啓蒙活動や動機づけ，働きかけを根気よく続けることにつきると考える。

(2)　釧路支庁管内

釧路支庁管内10市町村での「絵画関係講座」開設の有無は，開設した市町が4，開設しなかった町村6がであり，開設したのは全体の40％であった。市町村別にみると市が1市で1，町が8町で3，村が1村で0の状況であった。開設しなかった町村が6であったが，そのうち回答を寄せてくれた4町村からの理由は次のようなものであった。

『住民の要望等がないため』(釧路町)，『絵画サークルが1団体あるが，特に講座等は行なっていない。児童絵画作品展として，お母さんの絵〈母の日〉，お父さんの絵〈父の日〉，おじいちゃん，おばあちゃんの絵〈敬老の日〉の作品展示を行なっている。合計453点。その他，総合文化祭において，一般は展示部門で絵画作品の展示を行なっている』(標茶町)，『12年度開設計画はなかった。文化団体として絵画サークルがあるので，希望する方についてはサークルへの入会をすすめる。12年度は希望者はありませんでした』(白糠町)，『別の講座の中で，絵手紙等のメニューを取り入れているが，本格的な絵画講座については指導者も不足していることもあり，実施できない状況である』(浜中町)，『村民からの要望が特にないので開設していない』(鶴居村）というように開設しなかった理由をみるかぎり①住民の要望がない②別な形での絵画の発表活動がある③絵画サークルの活動がある④指導者が不足しているなどが挙げられた。②別な形での発表活動③絵画サークルの活動とを連動させながら，サークル活動の中心的な人材を活用して，講座形式の事業に持っていくことも考えられそうだ。他市町から専門家を講師として招かなくても，身内で担当することも可能である。また，地元教育機関に美術関係教員等がいたら講師にすることができるのではないか。

(3)　根室支庁管内

根室支庁管内5市町での「絵画関係講座」開設の有無は，開設した市町は3，開設しなかった町は2であり，開設したのは全体の60％であった。市町別にみると市が1市で1，町が4町のうち2の状況であった。開設しなかった町が2であったが，そのうち回答を寄せてくれた1町からの理由は次のようなものであった。

『相談事業として水墨画講座が実施されたが，参加者が主体となって行なった。主催事業としては行なわれていない』(羅臼町)というように，教育委員会とは別に住民が主体となって講座が開設展開されているのは，大変好ましい形であり，過去の調査ではないケースとして注目したい。住民主導型の講座で，住民意識を高める意味や動機づけの観点からも新しいケースとして推奨したい。

2．講座の分野（領域）

(1) 網走支庁管内

開設した講座の分野(領域)は，表1－1のように「油絵」(網走市，北見市)，「水彩画」(北見市，小清水町，生田原町)，「トールペイント」(佐呂間町)，「絵手紙」(留辺蘂町)の4分野であった。北見市が5講座，留辺蘂町が2講座開設していた。6市町4分野での講座合計は11であった。

(2) 釧路支庁管内

開設した講座の分野（領域）は，表1－2のように「油絵」(釧路市)，「水彩画」(釧路市)，「工芸・彫刻」(音別町)，「和紙絵」(厚岸町)，「版画」(厚岸町)，「ウッドクラフト・トールペイント」(釧路市)，「絵手紙」(釧路市)，「絵はがき」(阿寒町)の8分野であった。釧路市が8講座，厚岸町が2講座，音別町が3講座開設していた。4市町8分野での講座合計は14であった。

表1-1 網走支庁管内6市町で開設した講座の分野(領域)・数

分野(領域)	開設講座数	講　座　名(市町村名)
油絵	4	油絵入門(網走市)，油絵(朝)1期(北見市)，油絵(朝)2期(北見市)，油絵(夜)2期(北見市)
水彩画	4	水彩画1期(北見市)，水彩画2期(北見市)，夏休み子ども絵画教室(小清水町)，読書感想画教室(生田原町)
トールペイント	1	図書館講座トールペイント教室(佐呂間町)
絵手紙	2	絵手紙1(留辺蘂町)，絵手紙2(留辺蘂町)
計	11	

表1-2 釧路支庁管内4市町で開設した講座の分類(領域)・数

分野(領域)	開設講座数	講　座　名(市町村名)
油絵	2	はじめての油絵教室(昼の部)(釧路市)，はじめての油絵教室(夜の部)(釧路市)
水彩画	1	はじめての水彩画(釧路市)
工芸・彫刻	3	紙ねんど細工(音別町)，飾り羽子板(昼)(音別町)，飾り羽子板(夜)(音別町)
和紙絵	1	町民生涯学習セミナー：和紙絵(厚岸町)
版画	1	町民生涯学習セミナー：切り紙版画(厚岸町)
ｳｯﾄﾞｸﾗﾌﾄ･ﾄｰﾙﾍﾟｲﾝﾄ	3	ウッドクラフト＆トールペイント(釧路市)，トールペイント1(釧路市)，トールペイント2(釧路市)
絵手紙	2	絵手紙1(釧路市)，絵手紙2(釧路市)
絵はがき	1	シルバー学科絵はがき講座(阿寒町)
計	14	

表1-3 根室支庁管内3市町で開設した講座の分野(領域)・数

分野(領域)	開設講座数	講　座　名(市町村名)
油絵	4	成人学校(根室市)，しるべっと学園「美術セミナー」(中標津町)，写生会(中標津町)，油絵教室(別海町)
水彩画	2	初級絵画教室(別海町)，そよかぜ絵画教室(別海町)
トールペイント	2	トールペインティング教室Ⅰ(中標津町)，トールペインティング教室Ⅱ(中標津町)
絵手紙	1	絵てがみ教室(別海町)
計	9	

(3)　根室支庁管内

開設した講座の分野（領域）は，表１－３のように「油絵」（根室市，中標津町，別海町），「水彩画」（別海町），「トールペイント」（中標津町），「絵手紙」（別海町）の５分野であった。中標津町と別海町が４講座開設していた。３市町４分野での講座合計は９であった。３支庁管内共通して開催していた講座は「油絵」，「水彩画」，「絵手紙」，「トールペイント」の４分野であり，特に近年盛んになってきた「絵手紙」，「トールペイント」の人気の高さを示すものとして注目したい。

３．講座の月

(1)　網走支庁管内

開設した11講座の月については，４月が３講座，５月が２講座，６月が３講座，７月が４講座，８月が０，９月が３講座，10月が４講座，11月が３講座，12月が４講座，１月から３月までが１講座となっていて，７月，10月，12月がそれぞれ４講座で他の月と比べるとやや多くなっていた。８月は講座を開設している市町はなかった。管内的にみるとほぼ年間を通して講座が開設されていることがわかった。

(2)　釧路支庁管内

開設した14講座の月については，４月が０，５月が１講座，６月が５講座，７月，８月，12月が７講座，９月が３講座，10月が２講座，11月が４講座，１月と２月が１講座となっていて，７月，８月，12月が７講座で他の月と比べると多くなっていた。４月と３月は講座を開設している市町はなかった。開催時期は初夏から秋に多く集中した傾向がみられた。出やすい時期を意識的に設定したことがうかがわれた。

(3)　根室支庁管内

開設した９講座の月については，４月が０，５月が２講座，６月，９月，10月，11月，12月，２月が３講座，７月が４講座，８月が５講座，３月が１講座となっていて，８月が５講座で多くなっていた。年度初めと年度末は少ない状況であったが，その他の月は３講座から５講座までと開設市町が少ないとはいえ，ほぼ年間を通して講座が開設されている状況であった。

４．講座の期間（日数）

(1)　網走支庁管内

開設した11講座の期間（日数）については，表２－１のように１日間から15日間までと，当然ながら講座の内容によって幅があった。「読書感想画教室」（生田原町），「図書館講座：トールペイント」（佐呂間町）が１日間で最も短かく，「油絵〈朝〉１期・２期」（北見市），「油絵〈夜〉２期」（北見市），「水彩画１期・２期」（北見市）が15日間と最も長かった。３日間と10日間が１講座，４日間が２講座であった。１回の講座時間にもよるが，純粋美術系分野の油絵や水彩画は基礎的な知識から，描けるまでの技法を一通り習得するまでの日程をきちんと確保していることがわかった。

(2)　釧路支庁管内

開設した14講座の期間（日数）については，表２－２のように１日間から19日間までとなっていた。「トールペイント１・２」（釧路市），「町民生涯学習セミナー：切り紙版画」（厚岸町）が１日間で最も短く，「紙ねんど細工」（音別町）が19日間と最も長かった。網走支庁管内と同様に純粋美術系分野の油絵や水彩画は10日間と常識的な日程の設定になっていた。「紙ねんど細工」が19日間と長期間の設定で，時間を十分確保しての講座対応していることが注目された。具体的な制作内容までの設問はしなかったが，おそらく細かな細工の題材で丁寧な指導を前提にしての日程設定だと推測した。

(3) 根室支庁管内

開設した９講座の期間（日数）については，表２－３のように１日間から25日間までとなっていた。「写生会」（中標津町）が１日間で最も短く，「そよかぜ絵画教室」（別海町）が25日間と最も長かった。「そよかぜ絵画教室」は幼児，小学生対象の講座で，毎回１時間の設定時間で展開され６月から２月までの長丁場の講座であった。おそらく教育的配慮が企画の中に含まれていることが伝わってきた。ここでも油絵は10日間と常識的な日程を確保していることがわかった。

表2-1　網走支庁管内６市町で開設講座の設定期間

設定期間	講　座　名（市町村名）
１日間	読書感想画教室（生田原町），図書館講座：トールペイント教室（佐呂間町）
３日間	夏休み子ども絵画教室（小清水町）
４日間	絵手紙１（留辺蘂町），絵手紙２（留辺蘂町）
10日間	油絵入門（網走市）
15日間	油絵（朝）１期（北見市） 油絵（朝）２期（北見市） 油絵（夜）２期（北見市） 水彩画１期（北見市） 水彩画２期（北見市）

表2-2　釧路支庁管内４市町で開設講座の設定期間

設定期間	講　座　名（市町村名）
１日間	トールペイント１（釧路市） トールペイント２（釧路市） 町民生涯学習セミナー：切り紙版画（厚岸町）
２日間	ウッドクラフト＆トールペイント（釧路市） 町民生涯学習セミナー：和紙絵（厚岸町）
３日間	絵手紙１（釧路市），絵手紙２（釧路市）
８日間	飾り羽子板（昼）（音別町） 飾り羽子板（夜）（音別町）
９日間	シルバー学科絵はがき講座（阿寒町）
10日間	はじめての油絵教室（昼の部）（釧路市） はじめての油絵教室（夜の部）（釧路市） はじめての水彩画（釧路市）
19日間	紙ねんど細工（音別町）

表2-3　根室支庁管内３市町で開設講座の設定期間

設定期間	講　座　名（市町村名）
１日間	写生会（中標津町）
３日間	絵てがみ（別海町）
５日間	トールペインティング教室Ⅰ（中標津町） トールペインティング教室Ⅱ（中標津町）
６日間	成人学校（根室市）
８日間	初級絵画教室（別海町）
10日間	油絵教室（別海町）
12日間	しるべっと学園「美術セミナー」（中標津町）
25日間	そよかぜ絵画教室（別海町）

5．講座の時間

(1) 網走支庁管内

開設した11講座の一日の実時間については，表３－１のように２時間から２時間30分であった。２時間というのが最も多く11講座中10講座であった。「油絵入門」（網走市）の１講座だけ２時間30分であった。普通，実技をともなう講座は，２時間から３時間が１回の適切な時間といわれているので全体としては好ましい設定といえる。

(2) 釧路支庁管内

開設した14講座の一日の実時間については，表３－２のように１時間30分から４時間であった。２時間が最も多く６講座，１時間30分と３時間がそれぞれ３講座，４時間が２講座であった。開設日程が短い場合は１日の実時間がどうしても長くなる傾向になる。最も多い４時間の２講座については，１日間と２日間の設定期間の講座であった。

表3-1　網走支庁管内６市町で開設講座の設定時間

設定時間	講　座　名(市町村名)
２時間	油絵(朝)１期(北見市)
	油絵(朝)２期(北見市)
	油絵(夜)２期(北見市)
	水彩画１期(北見市)
	水彩画２期(北見市)
	読書感想画教室(生田原町)
	夏休み子ども絵画教室(小清水町)
	図書館講座トールペイント教室(佐呂間町)
	絵手紙１(留辺蘂町)
	絵手紙２(留辺蘂町)
２時間30分	油絵入門(網走市)

表3-2　釧路支庁管内４市町で開設講座の設定時間

設定時間	講　座　名(市町村名)
１時間30分	紙ねんど細工(音別町)
	飾り羽子板(昼)(音別町)
	飾り羽子板(夜)(音別町)
２時間	はじめての油絵教室(昼の部)(釧路市)
	はじめての油絵教室(夜の部)(釧路市)
	はじめての水彩画(釧路市)
	絵手紙１(釧路市)
	絵手紙２(釧路市)
	シルバー学科絵はがき講座(阿寒町)
３時間	ウッドクラフト＆トールペイント(釧路市)
	トールペイント１(釧路市)
	トールペイント２(釧路市)
４時間	町民生涯学習セミナー：和紙絵(厚岸町)
	町民生涯学習セミナー：切り紙版画(厚岸町)

表3-3　根室支庁管内３市町で開設講座の設定時間

設定時間	講　座　名(市町村名)
１時間	そよかぜ絵画教室(別海町)
２時間	成人学校(根室市)
	しるべっと学園「美術セミナー」(中標津町)
	初級絵画教室(別海町)
	絵てがみ教室(別海町)
２時間30分	トールペインティング教室Ⅰ(中標津町)
	トールペインティング教室Ⅱ(中標津町)
	油絵教室(別海町)
５時間	写生会(中標津町)

(3) 根室支庁管内

開設した９講座の一日の実時間については，表３－３のように１時間から５時間であった。

やはり２時間というのが４講座で一番多くなっている。「写生会」は１日設定の講座であるから長時間の設定は当然といえる。他については，問題のない時間設定といえる。

６．講座の時間帯

(1) 網走支庁管内

開設した11講座の時間帯については，午前中が11講座中６講座，正午から午後６時までが１講座，午後６時から午後９時までが５講座であった。半数以上が午前中に開設していたが主婦層など女性受講者が参加しやすい時間帯に合わせた設定の意図がうかがえた。

(2) 釧路支庁管内

開設した14講座の時間帯については，午前中が14講座中９講座，正午から午後６時までは５講座，午後６時から午後９時までが３講座であった。

(3) 根室支庁管内

開設した９講座の時間帯については，午前中が９講座中２講座，正午から午後６時までが５講座，午後６時から午後９時までが３講座であった。「写生会」は一日間の講座なので午前から午後までの時間設定であったが，これを含めて午後の時間帯の講座が９講座中５講座と他の２支庁管内より多くなっていた。午前中と同様，午後６時までの時間帯は，参加しやすい適切な時間帯といえそうだ。

７．講座の受講者数と男女の割合

(1) 網走支庁管内

開設した11講座の受講者数と男女の割合は，表４－１のように開設11講座の受講者数の総計は146人であった。内訳は男性が40人，女性が106人であり全体の27.4％が男性で，72.6％が女性で女性の受講者がかなり多い状況であった。

表4-1　網走支庁管内６市町の受講者数と男女の割合・年代

講　座　名(市町村名)	男	女	計	4歳 9歳	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代
油絵入門(網走市)	3	5	8	0	0	3	1	2	1	1	0	0
油絵(朝)Ⅰ期(北見市) 油絵(朝)Ⅱ期(北見市)	7	17	24	0	0	0	0	2	8	11	3	0
油絵(夜)Ⅱ期(北見市)	6	6	12	0	0	2	2	3	3	2	0	0
水彩画Ⅰ期(北見市) 水彩画Ⅱ期(北見市)	10	20	30	0	0	0	0	2	13	9	6	0
読書感想画教室(生田原町)	3	7	10	0	10	0	0	0	0	0	0	0
夏休み子ども絵画教室(小清水町)	11	15	26	15	11	0	0	0	0	0	0	0
図書館講座トールペイント教室(佐呂間町)	0	11	11	0	0	0	3	3	5	0	0	0
絵手紙１(留辺蘂町)	0	10	10	0	0	0	0	0	10	0	0	0
絵手紙２(留辺蘂町)	0	15	15	0	0	0	0	0	15	0	0	0
合計	40	106	146	15	21	5	6	12	55	23	9	0

(2) 釧路支庁管内

開設した14講座の受講者数の男女の割合は，表４－２のように開設14講座の受講者の総計は

210人であった。内訳は男性が16人，女性が 194人であり全体の7.6%が男性で，92.4 %が女性で圧倒的に女性が多い状況にあった。

表4-2　釧路支庁管内４市町の受講者数と男女の割合・年代

講　座　名（市町村名）	男	女	計	4歳 9歳	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代
はじめての絵画教室（昼の部）（釧路市）	1	14	15	0	1	0	2	4	3	3	2	0
はじめての絵画教室（夜の部）（釧路市）	5	9	14	0	0	4	0	1	2	5	2	0
初めての水彩教室（釧路市）	5	14	19	0	1	0	4	1	3	6	4	0
ウッドクラフト＆トールペイント（釧路市）	0	11	11	0	0	0	2	6	3	0	0	0
絵手紙１（釧路市）	0	15	15	0	0	0	1	3	4	6	1	0
絵手紙２（釧路市）	1	26	27	0	0	1	2	6	6	12	0	0
トールペイント１（釧路市）	0	19	19	0	0	0	18	0	0	1	0	0
トールペイント２（釧路市）	0	10	10	0	0	0	5	5	0	0	0	0
シルバー学科絵はがき講座（阿寒町）	2	14	16	0	0	0	0	0	0	5	10	1
町民生涯学習セミナー：和紙絵（厚岸町）	1	19	20	0	0	0	0	0	8	3	7	2
町民生涯学習セミナー：切り紙版画（厚岸町）	1	14	15	0	0	0	0	0	3	2	9	1
紙ねんど細工（音別町）	0	8	8	0	0	1	2	0	3	1	1	0
飾り羽子板（昼）（音別町）	0	12	12	0	0	0	0	4	2	6	0	0
飾り羽子板（夜）（音別町）	0	9	9	0	0	0	1	2	4	1	1	0
合計	16	194	210	0	2	6	37	32	41	51	37	4

(3)　根室支庁管内

開設した９講座の受講者の男女の割合は，表４－３のように開設９講座の受講者の総計は125人であった。内訳は男性15人，女性が 110人であり全体の12.0%が男性で，88.0%が女性で，やはり圧倒的に女性が多い状況にあった。前の報告でも同様な結果が出ているが，女性の講座受講が盛んであることを示している。

表4-3　根室支庁管内３市町の受講者数と男女の割合・年代　　※－ 回答なし

講　座　名（市町村名）	男	女	計	4歳 9歳	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代
成人学校（根室市）	2	10	12	0	0	0	1	4	7	0	0	0
しるべっと学園「美術セミナー」（中標津町）	0	19	19	－	－	－	－	－	－	－	－	－
写生会（中標津町）	2	2	4	－	－	－	－	－	－	－	－	－
トールペインティング教室Ⅰ（中標津町）	0	7	7	－	－	－	－	－	－	－	－	－
トールペインティング教室Ⅱ（中標津町）	0	16	16	－	－	－	－	－	－	－	－	－
初級絵画教室（別海町）	0	6	6	0	0	0	0	0	6	0	0	0
油絵教室（別海町）	5	12	17	0	3	1	2	5	4	2	0	0
絵てがみ教室（別海町）	1	24	25	0	0	0	0	10	11	4	0	0
そよかぜ絵画教室（別海町）	5	14	19	10	9	0	0	0	0	0	0	0
合計	15	110	125	10	12	1	3	19	28	6	0	0

※合計は，中標津町を除いた人数。

８．受講者の年代

(1)　網走支庁管内

受講者の年代については男女別には区分しなかったが，表４－１のように10歳以下（４歳か

ら9歳）が15人，10代が21人，20代が5人，30代が6人，40代が12人，50代が55人，60代が23人，70代が9人，80代が0となっている。40代から 70代までが99人と全体の67.8%を占めている。中でも50代が半数を占めていた。この年代になると時間的にもゆとりが出てきて，生きがいづくりと趣味的なものとを連動させて，制作や表現を通して「自分の世界」を創造することを強く意識しているものと判断した。

(2) 釧路支庁管内

受講者の年代については男女別には区分しなかったが，表4－2のように10歳以下（4歳から9歳）が0，10代が2人，20代が6人，30代が37人，40代が32人，50代が41人，60代が51人，70代が 37人，80代が4人となっている。年代については 40代から70代が全体の76.7%を占めていた。網走支庁管内に比較すると60代，70代の高齢者の受講者が多くなっいる。「絵手紙」や「絵はがき」，「切り紙版画」などの講座に集中している傾向がみられた。誰でもできる簡便さと気軽に制作できる楽しさが魅力になったのではないかと思われた。

(3) 根室支庁管内

受講者の年代については男女別には区分しなかったが，表4－3のように10歳以下（4歳から9歳）が10人，10代が12人，20代が1人，30代が3人，40代が19人，50代が28人，60代が6人，70歳と80歳代は0となっている。ただ，前述の数字は中標津町からの年代別の回答が未記入であったので除いたデータになっているが，傾向としては40代から60代が67.1%と他管内同様高い数字を示していた。ここでも「絵手紙」講座の人気が高くなっている。

9．講座の担当指導者

(1) 網走支庁管内

講座の担当指導者については，11講座のうち6講座が「地元専門家」，2講座が「主催教育委員会職員」と「他市町村専門家」がそれぞれ担当していた。地元に講座を担当できる専門家がいることが望ましい。6講座とも市部（網走市，北見市）の講座であったが，町村部には専門家はこれまでの調査でも少ない現況にある。町部の2講座が地元の中学校教員やサークル代表者が担当していたが，地元に専門家がいない場合の講師確保策としてはきわめて現実的な対応策で高く評価できる。また，2講座が主催教育委員会職員が担当していたが生涯学習推進の観点からは理想的な指導体制といえる。前の報告でも述べたが，生涯学習関連事業を円滑に推進するために，教育委員会に生涯学習の幅広い関係講座などの企画・立案，組織・運営，管理・評価を総合的に担当できる複数の生涯学習支援者を配置することが望まれる。支庁管内市町村または近隣市町村相互間での講師，指導者のネットワークづくりが急務と考える。

(2) 釧路支庁管内

講座の担当指導者については，14講座のうち12講座が「地元専門家」，2講座が「他市町村専門家」が担当していた。講座開設は4市町と少なかったが，4市町とも大方は地元専門家で対応できたことは，指導者に恵まれた状況にあるといえる。

(3) 根室支庁管内

講座の担当指導者については，９講座のうち２講座が「地元専門家」，３講座が「他市町村専門家」，２講座がそれぞれサークル代表者・会員，美術専門学校学生が担当していた。講座開設は３市町ではあったが，３市町ともサークル関係者や美術専門学校学生などを講師に導入するなどの工夫の跡がみられた。学生の講師導入は今までの調査ではなかったケースであったが，講師導入の新しい方法として活用できそうだ。

10．講座終了後の発表会開催の有無

⑴　網走支庁管内

講座終了後の作品発表会開催の有無については，６市町村11講座のうち網走市，北見市，生田原町の３市町７講座が開催していた。会場は市立美術館，市民会館，町立図書館などといずれも公的な文化施設であった。中でも北見市は公民館まつりの一環として発表の場を設けていた。前の報告でも述べたが，市町村によっては適切な会場がなくて発表の場をもてないところもある。しかし，学習成果の評価の観点からは，可能なかぎり発表の場を設けることが望ましい。受講者の励みや意欲にも効果がある。北見市のように「公民館まつり」や時期的に合えば「市民・町民・村民文化祭」などに発表の場を設けることを奨励したい。

⑵　釧路支庁管内

講座終了後の作品発表会開催の有無については，４町14講座のうち阿寒町，音別町の２町４講座が開催していた。会場は町立公民館，改善センターなど網走支庁管内と同様に公的な施設であった。

⑶　根室支庁管内

講座終了後の作品発表会開催の有無については，３町９講座のうち根室市，別海町の２市町３講座が開催していた。会場は市総合文化会館，町中央公民館など公的な施設であった。

11．受講者の負担金額と教育委員会の負担金額

⑴　網走支庁管内

受講者の負担金と主催教育委員会の負担金額については，表５－１のように講座を開設した６市町11講座で，受講者負担の最高額は「油絵入門」（網走市）の1,000円で，最低額は「読書感想画教室」（生田原町），「夏休み子ども絵画教室」（小清水町），「絵手紙１」，「絵手紙２」（留辺蘂町）の３町４講座が無料であった。全体の平均額は４０９円であった。主催委員会の支出経費の最高額は「絵手紙１」，「絵手紙２」（留辺蘂町）の95,000円で，最低額は「読書感想画教室」（生田原町），「図書館講座トールペイント教室」（佐呂間町）の２町２講座が無料であった。６市町11講座の全体支出平均額は69,091円であった。

⑵　釧路支庁管内

受講者の負担金と主催教育委員会の負担金額については，表５－２のように講座を開設した４市町14講座で，受講者負担の最高額は「はじめての油絵教室〈昼の部〉，〈夜の部〉」，「はじめての水彩教室」（釧路市）の3,500円で，最低額は「シルバー学科絵はがき講座」（阿寒町），「町民生涯学習セミナー：切り紙版画」（厚岸町）の２町２講座が無料であった。全体の平均額は

表5-1　網走支庁管内６市町での開設受講者の負担金額と教育委員会の支出経費

単位：円

市町村名	講　座　名	自己負担金額	教育委員会支出経費
網走市	油絵入門	1,000	80,000
北見市	油絵(朝)Ⅰ期	600	90,000
	油絵(朝)Ⅱ期	600	90,000
	油絵(夜)Ⅱ期	600	90,000
	水彩画Ⅰ期	600	90,000
	水彩画Ⅱ期	600	90,000
生田原町	読書感想画教室	0	0
小清水町	夏休み子ども絵画教室	0	40,000
佐呂間町	図書館講座：トールペイント教室	500	0
留辺蘂町	絵手紙１	0	95,000
	絵手紙２	0	95,000

表5-2　釧路支庁管内４市町での開設受講者の負担金額と教育委員会の支出経費

単位：円

市町村名	講　座　名	自己負担金額	教育委員会支出経費
釧路市	はじめての油絵教室(昼)の部	3,500	71,000
	はじめての油絵教室(夜)の部	3,500	71,000
	はじめての水彩教室	3,500	71,000
	ウッドクラフト＆トールペイント	1,750	21,000
	絵手紙１	1,350	15,000
	絵手紙２	1,550	22,000
	トールペイント１	1,550	16,000
	トールペイント２	1,550	16,000
阿寒町	シルバー学科絵はがき講座	0	60,000
厚岸町	町民生涯学習セミナー：和紙絵	1,360	20,000
	町民生涯学習セミナー：切り紙版画	0	19,414
音別町	紙ねんど細工	2,400	33,000
	飾り羽子板(昼)	1,200	16,000
	飾り羽子板(夜)	1,200	16,000

表5-3　根室支庁管内３市町での開設受講者の負担金額と教育委員会の支出経費

単位：円

市町村名	講　座　名	自己負担金額	教育委員会支出経費
根室市	成人学校	1,500	38,000
中標津町	しるべっと学園「美術セミナー」	3,000～4,500	436,612
	写生会	0	39,955
	トールペインティング教室１	2,000	31,600
	トールペインティング教室２	2,000	40,295
別海町	初等絵画教室	1,200	14,000
	油絵教室	0	120,000
	絵てがみ教室	2,500	40,000
	そよかぜ絵画教室	0	125,000

1,744円であった。主催教育委員会の支出経費の最高額は「はじめての油絵教室〈昼の部〉，〈夜の部〉」，「はじめての水彩教室」（釧路市）の71,000円で，最低額は「絵手紙１」（釧路市）の15,000円であった。４市町14講座の全体支出平均額は33,387円であった。

(3)　根室支庁管内

受講者の負担金と主催教育委員会の負担金額については，表５－３のように講座を開設した３市町９講座で，受講者負担の最高額は「しるべっと学園［美術セミナー］」（中標津町）の上限4,500円で，最低額は「写生会」（中標津町），「油絵教室」，「そよかぜ絵画教室」（別海町）の２町３講座は無料であった。全体の平均額は1,522円であった。主催教育委員会の支出経費の最高額は「しるべっと［美術セミナー］」（中標津町）の436,612円で，最低額は「初等絵画教室」（別海町）の14,000円であった。３市町９講座の全体支出平均額は85,051円であった。

これらの負担額については，内容，期間，講師費，教材費などが各市町村でことなるので，数字だけでの比較はできないが，できる限り参加者負担金額は少ないほうがよい。参加者の増加策や活性化策にもつながると考える。

12.教育委員会が講座を企画する時の課題

(1)　網走支庁管内

「絵画関係」の講座を企画・開設する時に一番苦慮することはとの質問に対して２市８町２村から次のような意見が寄せられた。『①初心者，中級者など幅広い層の受講者がいること②夜間，昼間と希望者がまちまちであること③講座専門の空間がないこと』（網走市），『公民館のアトリエが狭いため，１講座に12名が限度で，受講希望を断るのが大変』（北見市），『実際に絵画技術の修得を目的とした講座の開設ではなく，読んだ本から，どんな情景を読み取るかを目的とした』（生田原町），『かつては油絵を中心とした絵画サークルがあったが，現在は解散しており，潜在的な希望者がどれだけいるのか把握しずらい。また，分野については細かな希望に対応しきれるか不安でもある。さらに町内に指導者を確保しずらいという悩みをもつ』（小清水町），『受講者を集めること。作品を借りて展示し，興味を持ってもらったり，ポスターやチラシの配布や広報への掲載，また直接呼びかけるなど，いろいろな方法でＰＲしている』（佐呂間町），『講座としてはあまりにも認知されているため，住民に対してのアピール法が非常に難しい。住民のニーズもどの程度が判断しずらく，組み立て方法が見当らない』（置戸町），『職員内の絵画に関するアートマネジメントが不足している』（斜里町），『人が集まらない』（端野町），『絵画講座を開設する際は，社会教育施設（マナビティーセンター）利用サークルとして認定を受けている絵画サークルが主管となり，サークル開設講座として実施することとなるので，特に講師の選定に苦慮することはない』（美幌町），『日程および住民のニーズ』（女満別町），『講座を実施するための参加者の確保が難しい。（住民数が少ないため，内容によっては受講者が集まらない）』（白滝村），『受講者の確保。講師の確保と選定』（東藻琴村）。

(2)　釧路支庁管内

「絵画関係」の講座を企画・開設する時に一番苦慮することはとの質問に対して１市２町か

ら次のような意見が寄せられた。『油絵と水彩画はリピーターの受講者が多いので，その調整と他受講生が疎外感をもたない配慮が必要。新規講師の開拓もしたいが長年のつきあいのある講師との関係や地元絵画界の人間関係にも配慮する必要があり難しい』(釧路市)，『当町には各種文化，芸能サークルを中心とした文化協会が設立されており，それぞれ活発な活動が展開されている。絵画サークル，陶芸サークル，写真サークル等，町主催講座から発展し，組織化されたものも多く，現在町としてはこれらサークルの会員増に期待しているが，若年層の加入が少なく高齢化の傾向にあり，今後各サークルの会員確保と育成支援に努めていくこととしているが，若い世代の参加が強く望まれる』(阿寒町)，『①講師の確保②成人を対象とした場合，講座の設定時間が難しい』(白糠町)。

(3) 根室支庁管内

「絵画関係」の講座を企画・開設する時に一番苦慮することはとの質問に対して２町から次のような意見が寄せられた。『参加者の確保。参加者の顔ぶれが毎回あまり変わらない』(中標津町)，『地元に講師がいない』(別海町)。

３支庁管内で共通する課題としては講師の確保が挙げられた。２支庁管内では参加者の確保が挙げられた。前年度までの他支庁管内市町村での調査でも同様な意見が集約されている。網走市のように会場の関係もあり受講者を制限して，断るのが大変という意見もあったが，受講者確保で悩んでいる市町村からみたら羨ましい限りといえよう。

13．平成13年度に開設または予定の「絵画関係講座」

(1) 網走支庁管内

平成12年度に開設した市町で，平成13年度に開設または予定している「絵画関係講座」については，網走市の「油絵入門」，北見市の「油絵〈朝〉Ⅰ期」，「油絵〈朝〉Ⅱ期」，「油絵〈夜〉Ⅰ期」，「油絵〈夜〉Ⅱ期」，「水彩画Ⅰ期」，「水彩画Ⅰ期」，生田原町の「読書感想画教室」，小清水町の「夏休み子ども絵画教室」の２市２町の９講座であった。すべてが継続講座であり，新規の開設講座はなかった。残念ながら開設市町数は６から４へ，講座数も11から９に減少した。

(2) 釧路支庁管内

平成12年度に開設した町で，平成13年度に開設または予定している「絵画関係講座」については，釧路市の「夜の油絵入門」，「スイスイ水彩画」，「油絵はどうでしょう」，「絵手紙をはじめてみませんか」，阿寒町の「シルバー学科絵はがき講座」，「同ちぎり絵講座」，厚岸町の「生涯学習講座〈春〉トールペイント講座」，音別町の「紙ねんど細工」，「飾り羽子板」の１市３町の９講座であった。うち「夜の油絵入門」，「スイスイ水彩画」，「油絵はどうでしょう」，「絵手紙をはじめてみませんか」，「シルバー学科ちぎり絵講座」，「生涯学習講座〈春〉トールペイント講座」の６講座が新規開設であり，特に釧路市の講座のネーミングがとてもユニークで親しみやすく，受講者に配慮した心が伝わってきた。平成12年度末開設の弟子屈町が「公民館講座［絵手紙教室］」を新規に開設したのが注目された。開設市町村数は４から５に増えたが，講座

数は14から10に減少した。

(3) 根室支庁管内

平成12年度に開設した町で，平成13年度に開設または予定している「絵画関係講座」については，根室市の内容は未定ではあるが講座を予定していた。中標津町の「しるべっと学園［美術セミナー］」，「写生会」，「トールペインティング１」，「トールペインティング２」，別海町の「そよかぜ絵画教室」の１市２町であり，全部が継続講座であった。開設市町は３で変わりはなかったが，講座数は９から６に減少した。３支庁管内とも，減少傾向が見られた。

Ⅳ まとめ

以上，平成12年度の網走支庁管内25市町村，釧路支庁管内10町村と根室支庁管内５市町教育委員会主催の「絵画関係講座」実施状況についての調査結果を報告し，若干の考察を試みたが今回の調査から次のことがいえそうだ。

(1) 市町村教育委員会主催で開設していた「絵画関係講座」は網走支庁管内25市町村で６市町（24.0％），釧路支庁管内10市町で４市町（40.0％），根室支庁管内５市町で３市町（60.0％）と３支庁管内では大きな違いがでたが，市町村の数にも違いがあるので，単純にこの％では比較検討することはできない。３支庁管内での合計40市町村の開設状況は13市町で32.5％であった。平成10年度に調査した空知支庁管内では44.4％，同11年度の留萌支庁管内では33.3％，同11年度宗谷支庁管内では30.0％，同12年度の渡島支庁管内では40.1％，同12年度の檜山支庁管内では30.0％であったので，前回までの調査済みの５支庁管内の平均35.6％と比較してみると３支庁管内合計では平均より下回っている状況にあることがわかった。この調査だけでは結論づけはできないが，やはり道央圏から離れると講座の開設状況は活発でないことが今回の調査でも確認することができた。

(2) 開設しなかった市町村からの主な理由として，網走支庁管内では①過去に関連講座を開設した②参加者が少ない③住民からのニーズがない④講師がいないなどが挙げられた。釧路支庁管内では①住民のニースがない②他の絵画発表の場がある③講師（指導者）の不足などが挙げられた。根室支庁管内では①住民が主導型で実施していることが挙げられた。それぞれ地域で抱える課題は異なるが「住民のニーズが無いか少ない」，「講師（指導者）の確保」が浮かびあがってきた。前の報告でも提言しているが①教育委員会での住民へ対する生涯学習の啓蒙活動の展開と推進②関係美術展を誘致しての鑑賞機会の提供③講師，指導者確保のための近隣市町村範囲を視野に入れた人的交流ネットワークづくり④今回新しく講師確保策として活用が確認されたが教育機関（教員）や美術専門学校学生の協力体制づくりなどが，対応策として考えられる。教育委員会と住民とが協力して知恵を出しあっていくことが必要であると考える。

(3) 前３回の調査でもそうであったように，今回も受講者の男女の比率は圧倒的に女性が多かった。網走支庁管内では男性が27.4％，女性が72.6％，釧路支庁管内では男性が7.6％，女性

が92.4%，根室支庁管内では男性が12.0%，女性が88.0%であった。３支庁管内の平均では男性が14.8%，女性が85.2%であった。年代層では網走支庁管内では40代から80代までが全体の67.8%，釧路支庁管内は78.6%，根室支庁管内は67.1%であり，圧倒的に中年層から高齢層にかけての受講者が多くなっていた。前の他支庁管内の調査でも同様な結果が出ている。自らが今後の人生をいかに楽しく有意義に送るかの意識の大きさを認識することができた。女性優位の受講傾向であるが，今後男性の講座受講者を増やす対策がますます重要になってきた。

(4) 講師（指導者）不足，講師（指導者）確保の問題が他管内と同様３支庁管内とも大きな課題として挙がってきた。前の報告でも述べたが絵画関係講師（指導者）は札幌市，石狩圏などに集中している傾向が強い。その市町村単独で講師が確保できない場合には，地方，地域間での講師交流ネットワークづくりを推進することを提言したい。今回の調査で分かったことであるが，専門家以外で網走支庁管内では中学校教員やサークル代表者，根室支庁管内では美術専門学校学生などの協力で講座を開設している町があった。このアイディアは今後の参考にもなるし拡大させてもよいのではないかと考える。今回も主催教育委員会職員が担当している講座が２つあったが，可能な限り各種の生涯学習関係事業を総合的に担当できる専門職員の適切な配置が望まれる。

(5) ３支庁管内合わせて平成12年度に絵画関係講座を実施した市町が34あったが，平成13年度も継続開設していたのは網走支庁管内では９講座，釧路支庁管内では３講座，根室支庁管内では６講座の計18講座であり，16講座が残念ながら打切りになっていた。釧路支庁管内で７講座が新規に開設されていたので合わせると25講座であったが，これでも全体としては減少傾向にあることがわかった。可能な限り新規講座を増やす方向で取り組んでほしいものである。

(6) 限られた項目ではあったが，今回は平成12年度の網走支庁管内，釧路支庁管内と根室支庁管内市町村教育委員会主催の絵画関係講座開設についての状況を調査することができた。平成９年度の空知支庁管内の結果(平成10年度調査)，平成10年度の留萌支庁管内，宗谷支庁管内の結果（平成11年度調査），平成11年度の渡島支庁管内，檜山支庁管内の結果（平成12年度度調査)と，これで道央圏，道北圏，道南圏，道東圏の８支庁管内113市町村の現況を知ることができた。前回までの調査同様，道央圏との地域差があることがさらに明確になってきた。今回も貴重な調査結果を得ることができた。今後の分析の基礎資料にさせていただきたい。

終わりに本務多忙な折り，快くアンケート調査にご協力いただいた網走支庁管内，釧路支庁管内と根室支庁管内40市町村の教育委員会生涯学習担当部署に心から感謝とお礼を申しあげる次第である。

文　献

1）野崎嘉男・藤原 等：北海道における生涯学習の取り組み(1),北海道女子大学短期大学部研究紀要,第34号,137～138,1998,

2）藤原 等・野崎嘉男：北海道における生涯学習の取り組み(2),北海道女子大学短期大学部研究紀要,第34号,149～162,1998,

3）北海道教育委員会：生涯学習意識調査結果(抜粋)

4）野崎嘉男：平成9年度の空知支庁管内市町村教育委員会主催の「絵画関係講座」に関する調査,北海道女子大学短期大学部研究紀要,第36号,73～86,1999,

5）野崎嘉男：平成10年度の留萌支庁管内・宗谷支庁管内市町村教育委員会主催の「絵画関係講座」に関する調査,北海道女子大学短期大学部研究紀要,第38号,67～80,2000,

6）野崎嘉男：平成11年度の渡島支庁管内・檜山支庁管内市町村教育委員会主催の「絵画関係講座」に関する調査,北海道浅井学園大学生涯学習システム学部研究紀要,第1号109～126,2001,

7）北海道新聞,平成13年9月6日,「シニアの意識 様変わり：道内中高年アンケート」